

癒やしワンダフル

災害救助犬やセラピードッグの派遣・育成をする認定NPO法人「日本レスキュー協会」(伊丹市)が1日、セラピードッグと交流できる施設「心と心」をオープンさせた。被災地に出かけるだけではなく、難病や不登校などの子どもに犬と触れ合っ心癒やしてもらえるよう活動を広げた。

【山本愛】

伊丹にセラピー犬交流施設



協会は阪神大震災を機に子どもらが、災害救助犬との発足。震災で親を亡くした交流を喜んだことから、1

難病や不登校の子 集える場に

995年12月からセラピードッグの育成を始めた。犬の世話をしたり、触れ合ったりすることでストレスを軽減し、精神的な安定を得てもらうための「癒やし」療法の一環で、協会は独自のセラピードッグ試験などを設け、育成に取り組んで来た。現在、保健所から引き取るなどした1〜6歳のメス7頭(トイプードル、柴犬など)がセラピードッグとして活躍する。

東日本大震災など被災地の避難所に派遣してきたが、日常生活でも「癒やし」が必要な個人はいる。犬と遊ぶことでお年寄りなどは身体機能を保つこともできる。このため来場型の施設づくりを考えた。施設は、倉庫に使っていた平屋のプレハブ小屋(広さ約20畳)を支援を得て約150万円かけてリフォーム。犬が駆け回っても滑りにくい床に犬舎や絵本を置く本棚も設けた。こうした施設は全国でも珍しいとい、協会は「高齢者、難病や不登校、引きこもりなどの子どもたちが将来は気軽に立ち寄り、犬と自然に交流できる居場所になりたい」と話している。

施設は寄付金や支援金などで運営。開館時間は午前10時〜午後5時(原則)。事前予約制で、施設見学なども受け付ける。問い合わせは日本レスキュー協会(072-770-4900)。

交流施設「心と心」の施設内で遊ぶセラピードッグ。伊丹市の日本レスキュー協会。